

センターの周辺に広がる水田では、およそ一ヶ月前に田植えが行なわれました。水を湛えた圃場<sup>ほしやう</sup>に植えられたばかりの早苗は大変弱々しく感じましたが、その生育は旺盛<sup>おうせい</sup>で、日増しに新緑の色彩を濃くしています。当センターが行なっている発掘調査や様々な事業も、この稲の生育のように、一年後には大きな成果を挙げられるようにがんばっていきたいと思います。

それでは、乙貞本号では、既に終了した欲賀西遺跡と現在行なっている播磨田西遺跡の発掘調査成果、春季講演会の開催結果、埋蔵文化財センター友の会活動などについて、お伝えしていきます。

## 発掘調査だより

### 播磨田西遺跡 第25次調査

石田町字七ヶ坪において、5月9日より宅地造成に伴う発掘調査を開始しました。

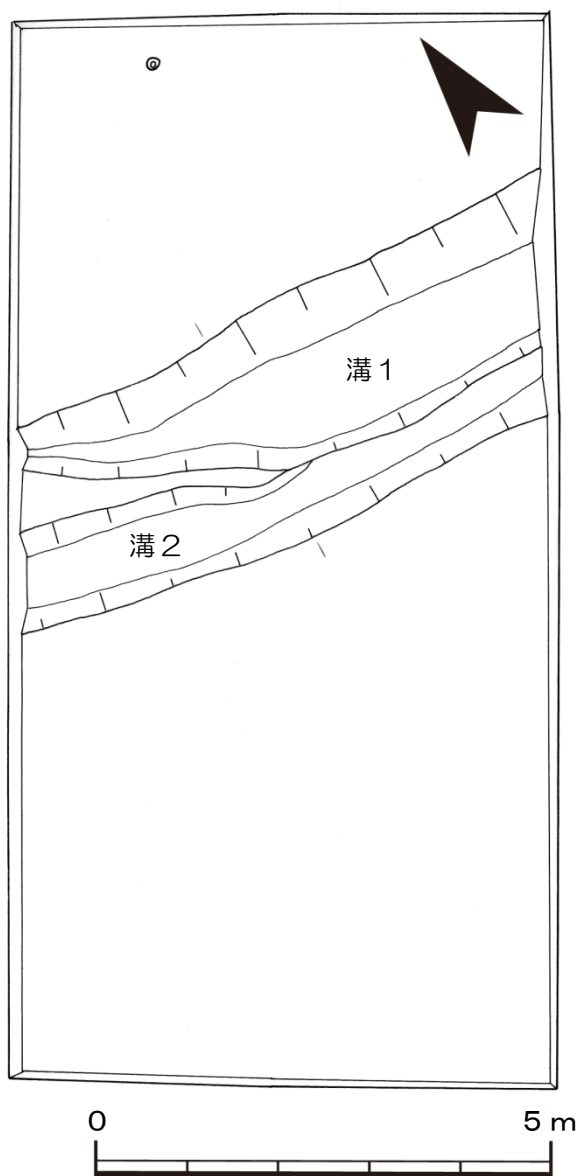
今回の調査は、先に行った確認調査で遺構が確認されたうちの道路予定地にあたる2箇所、約350㎡の面積を対象として実施しています。

そのうち、約70㎡の広さのある調査区1では、耕作土直下で溝1、2とピットを検出しました。

右図のとおり、溝は東西方向に流れ、全体の幅は約2.2mを測りますが、断面観察の結果、2条の溝が重なっていることが確認でき、幅約1.6mの溝1を幅1mの溝2が切り込んでいることがわかりました。

出土遺物は、溝1の溝底近くから壺がさかさまの状態<sup>さかさま</sup>で出土しており、その特徴から弥生時代中期の土器であると考えられます。

現在は調査区2の調査に着手<sup>ほうけいしゅう</sup>していて、方形周溝墓<sup>こうぼ</sup>2基のほか、溝6条、土坑<sup>どこう</sup>、ピットを検出していて、方形周溝墓を巡る溝からは土器が多く出土しています。この調査区2は、6月初旬までを予定しており、その詳細は次回で報告します。(畑本)



播磨田西遺跡調査区1 遺構図

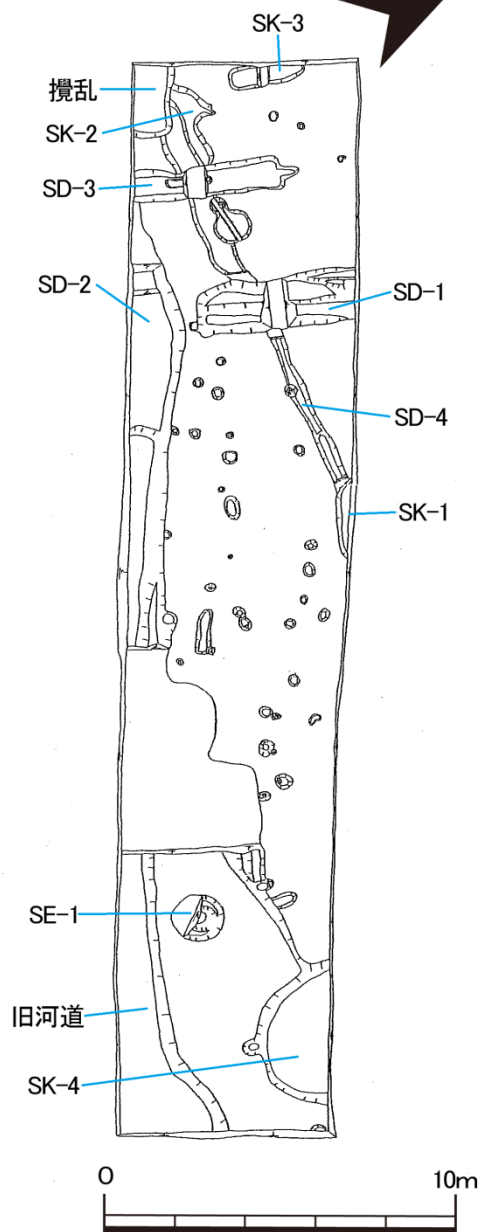
## 欲賀西遺跡 4 次調査

森川原町の岩崎神社公園隣接地において、宅地造成に伴う発掘調査を4月18日～5月15日の期間で実施しました。調査したのは、試掘調査において遺構が確認されたうち、宅地内道路にあたる範囲で、面積は約200㎡を測ります。

遺構は、地表より約30cm下で遺構が見つかり、溝（SD）や土坑（SK）、柱穴、井戸（SE）、旧河道を検出しました。4条の溝のうち、溝1（SD-1）は調査地に直交する方向に伸びる溝で、幅約1.5m、深さ約90cmの規模を測ります。溝の底からは地山の土とは異なる黄灰色粘質土が現れ、SD-1以前に<sup>あんきょ</sup>暗渠排水が行なわれていたことも分かりました。また、溝2（SD-2）は調査地の南辺で検出した溝で、調査地外に広がります。このSD-2では、溝の肩部で、弥生時代中期の<sup>かめ</sup>甕、ほぼ完形に近い状態で出土しました。

検出遺物は、土師器や黒色土器<sup>わん</sup>碗が多くを占めますが、弥生土器や須恵器、<sup>りよくゆうとうき</sup>緑釉陶器、<sup>かいゆう</sup>灰釉陶器、山茶碗、瓦、信楽焼、白磁なども出土しています。

平成4（1992）年に実施された本地南東側での、道路造成工事に伴う調査では、15世紀末～18世紀代の集落跡が見つっています。本調査地もその集落域に含まれていることが考えられます。（堀田）



左上：T-2 調査区全景

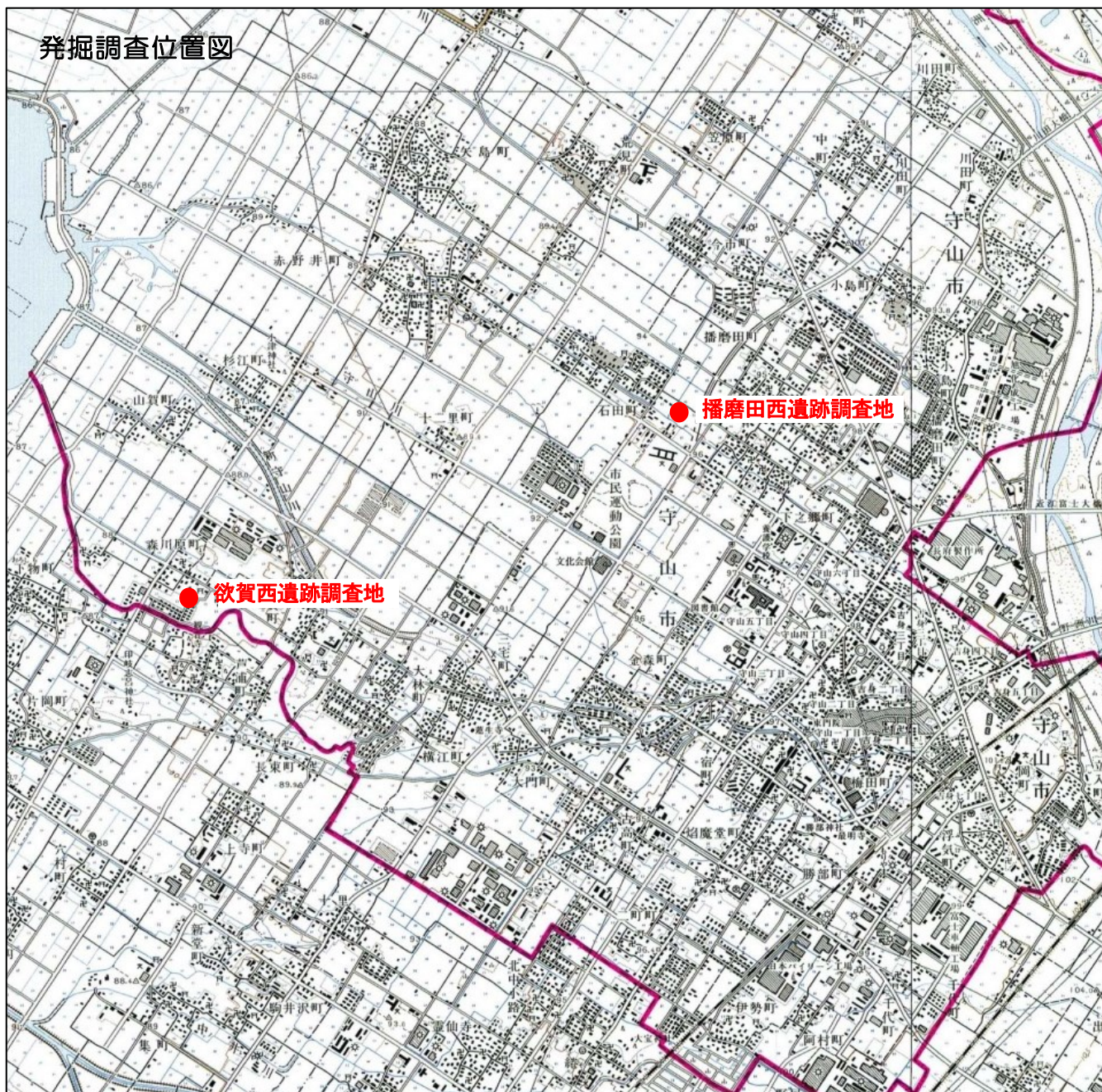
左下：SD-2 土器出土状況

下：T-1 調査地全景（南から）

欲賀西遺跡第3次調査遺構図



## 発掘調査位置図



## トピックス



### 春季講演会を開催しました！

春季講演会「織田信長、比叡山焼打ちと湖南地域」を5月19日（土）に開催しました。

講師はNPO法人東海学センター理事の兼康保明さんです。自身が担当された比叡山延暦寺の発掘調査の成果から、これまで凄惨に語られている比叡山焼打ちの再検討をせまる講演内容でした。さらに同時期の守山をはじめとする湖南地域についても、今に残る石造品などから大変豊かな地域だったのでは、と言及されていました。

## 平成 30 年度の友の会活動が始まりました！

歴史や史跡、遺跡に興味をもつ皆さんの集まりである埋蔵文化財センター友の会は、5月17日（木）に本年度の総会と第1回見学会を開催しました。

総会は愛荘町立歴史文化博物館で会場をお借りして開催し、その後、同館で行なわれている春季特別展「近江愛知郡-今昔-いまむかし」、金剛輪寺、「びんてまりの館」を見学しました。

下の写真は当日の様子です。



写真 上段左：総会風景、中：博物館見学風景、右：昼食メニュー、下段左金剛輪寺、中：同寺本堂内見学風景、右：「びんてまりの館」見学風景

## 6月16日（土） 平成 30 年度歴史入門講座第1講開講

「ひと・モノ・遺跡- 遺跡には、行き交ったひとやモノの残影が映る -」を開講します！

第1講は、『大王の世紀 鴨稻荷山古墳の被葬者像』をテーマに、白井 忠雄氏（高島歴史民俗資料館学芸員）に講演いただきます。まだ空きがありますので、是非受講してください。

## 新しい職員が加わりました！

前号後記欄で、本年度より新たに堀田佳典くんが調査員として加わったことをお伝えしました。遅れましたが、以下が堀田くん自身の自己紹介文です。

『本年度の四月から新たに調査員として働くことになりました、堀田佳典と申します。これまでは、彦根市の文化財課で非常勤職員として働いてきました。』

大学では一般的な講義を受けるにとどまっていたのですが、戦国期の近江の歴史について興味を抱いたことがきっかけとなり、自分の暮らす地域の歴史を深く学びたいと思い、この仕事を志しました。』

皆さんのお近くで発掘調査を行なうかもしれません。その時はどうぞ、声をかけてってください。

## 編集後記

「織田信長、例えるならトランプ」 これは、過日開催の講演会での講師の兼康さんのコメントです。「信長、トランプ説」というイメージ像は兼康さんに限らず、他の評論家やネット上でも見聞きすることがあります。織田信長のキャラクターを今現在、最も注目される人物にたとえる。このことは、実際はどうであったかは別にして、インパクトがあり、そられました。（馬耳東風）